

目 次

第1章 I F関数と VLOOKUP 関数	1
1-1 VLOOKUP 関数の概要.....	1
1-2 VLOOKUP 関数の「完全一致」検索.....	2
1-3 VLOOKUP 関数を挿入する.....	7
1-4 VLOOKUP 関数の「近似値」検索.....	16
1-5 「完全一致」検索と「近似値」検索のまとめ.....	22
1-6 I F 関数の概要.....	23
1-7 I F 関数.....	24
1-8 I F 関数を挿入する（関数を使わない場合）.....	28
1-9 I F 関数を挿入する（関数を使う場合）.....	34
1-10 I F 関数を挿入する（空欄なら空欄を返す場合）.....	43
第2章 納品書作成	52
2-1 均等割り付けを設定する.....	54
2-2 新しいシートを追加する.....	57
2-3 関数で今日の日付を挿入する（TODAY 関数）.....	66
2-4 日付の表示形式を変更する.....	69

【テキストの画面環境】

OS …………… Windows 10

ソフト …………… Microsoft Excel2019 (Office365) 及び 2016 及び 2013

解像度 …………… 主に 1024×768 または 1280×1024 で作成

【テキスト使用ファイル】



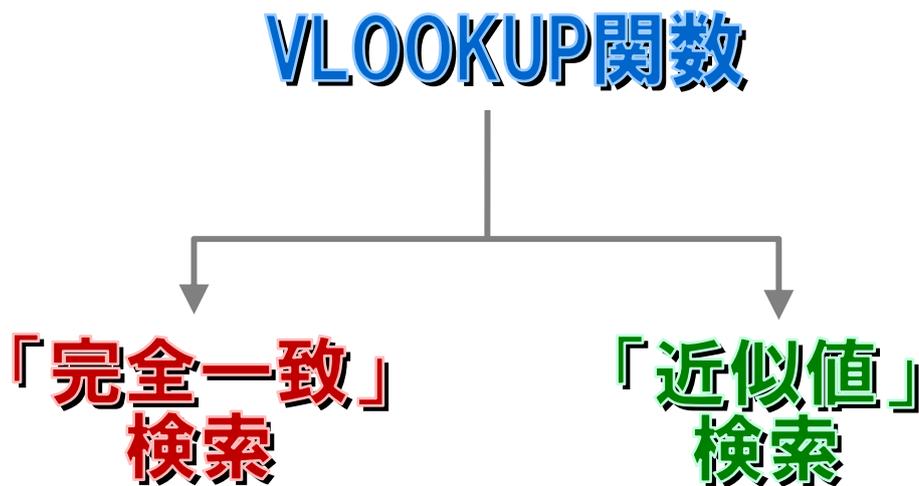
第1章 | F関数とVLOOKUP関数

本章では、ビジネスでの実用性が高いIF（イフ）関数とVLOOKUP（ビルックアップ）関数について学びます。

1-1 VLOOKUP関数の概要

VLOOKUP（ビルックアップ）関数は、参照先の表から該当するデータを検索して表示する関数です。

VLOOKUP関数の検索方法には、使用する目的によって「**完全一致**」検索と「**近似値**」検索の2つがあり、設定方法も少し異なります。順に見ていきましょう。



VLOOKUP関数は
目的によって、2種類の
使い方があるんだ。



1-2 VLOOKUP 関数の「完全一致」検索

はじめに「**完全一致**」検索から見ていきます。

まずは、使用例を見てイメージをつかみましょう。

実際の操作はP.6以降で行っていきますので、ここでは軽く読み進めて、イメージをつかんでいただく程度で結構です。

例：下図のセルA3に [品番] (例：103) を入力したら、別シートに作成した表を検索して、[品番] に該当する [商品名] (例：ノート) を元シートのセルB3に表示したい。

	A	B	C	D	E
1	文房具注文書				
2	品番	商品名	単価	数量	金額
3	103	ノート			
4					
5					
6					
7					
8					

	A	B	C
1	商品一覧		
2	品番	商品名	単価
3	101	えんぴつ	50
4	102	消しゴム	100
5	103	ノート	200
6	104	定規	150
7	105	下敷き	100
8			

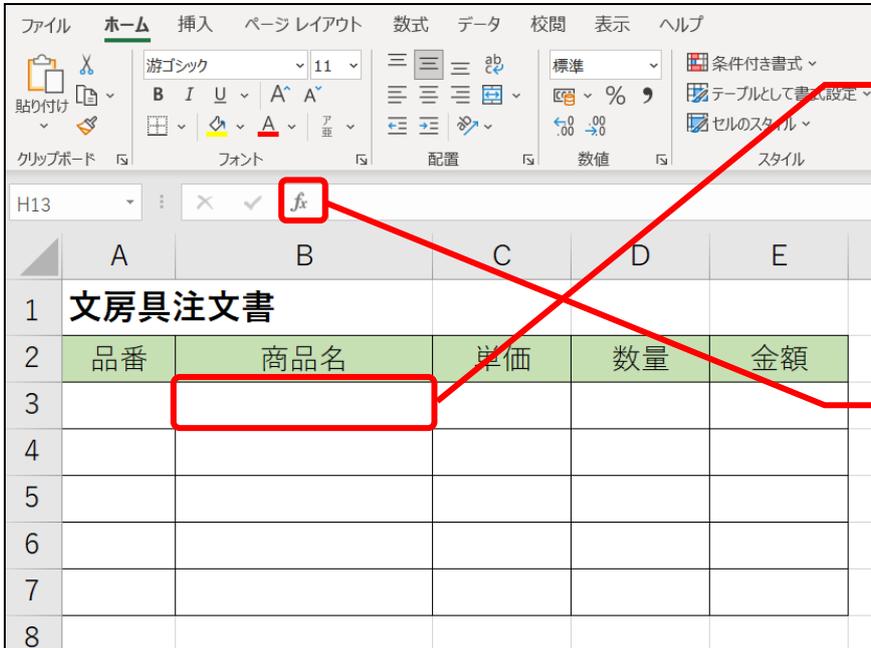
別シートに作成した表→

上記のように、入力した品番などを別表で探して、**完全に一致**した値のデータを取り出すのが「**完全一致**」検索です。

1-3 VLOOKUP 関数を挿入する

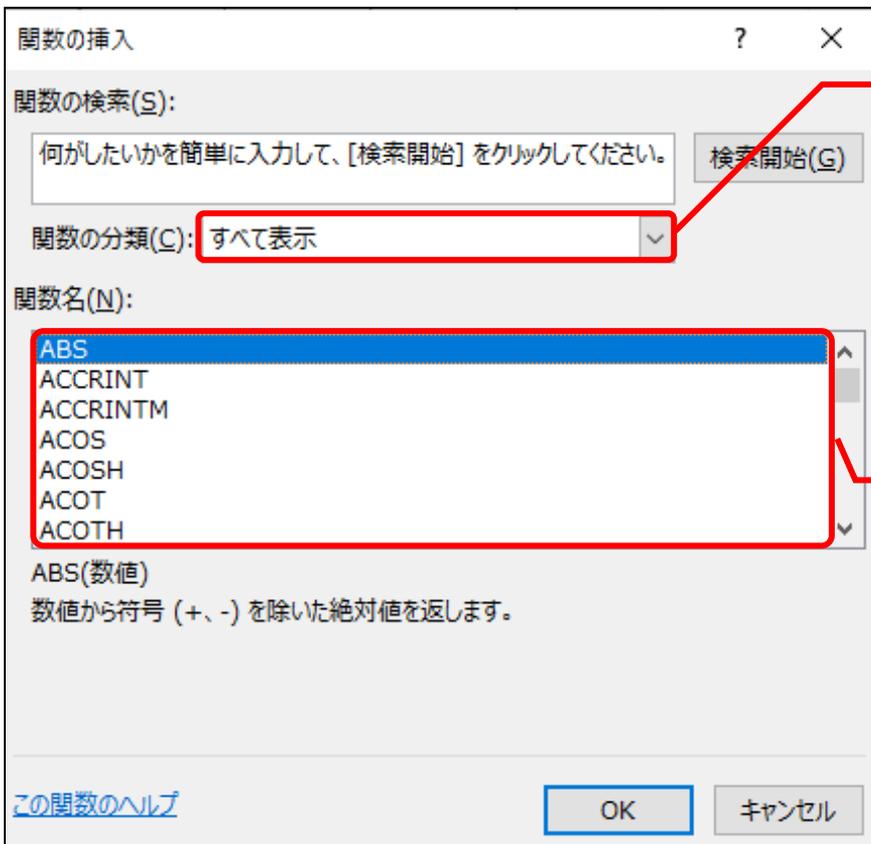
VLOOKUP 関数を挿入します。

品番を入力すると、商品名を表示するように VLOOKUP 関数を挿入してみましょう。



① 関数を挿入するセルを選択します。
例：セル B3

②  [関数の挿入] をクリックします。



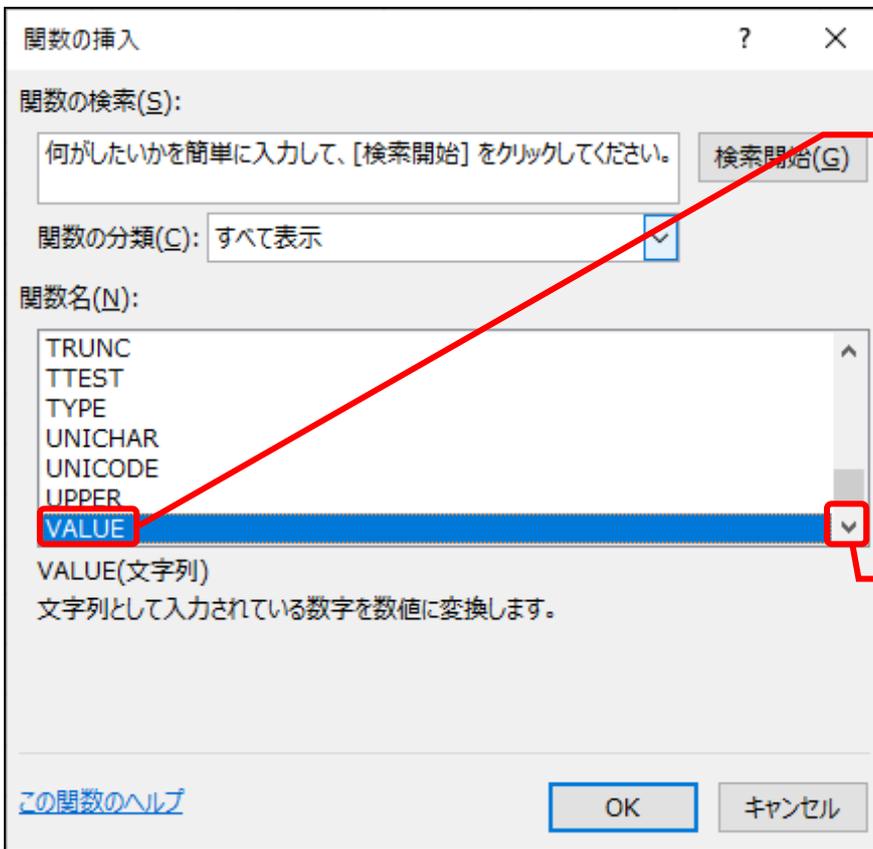
③  をクリックして、[すべて表示] を選択します。

④ [関数名] 欄内をクリックします。



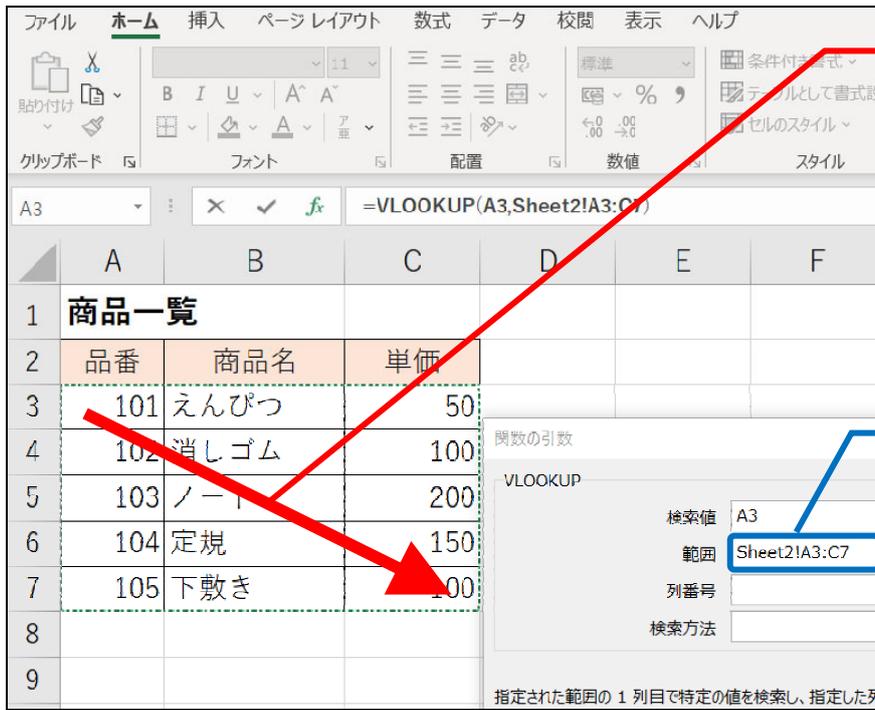
⑤ 挿入する関数の頭文字のキーを押します。
例：[V] キー

※ 例の「V」は、VLOOKUP 関数の頭文字です。



⑥ 頭文字を押したキーの先頭の関数までジャンプします。

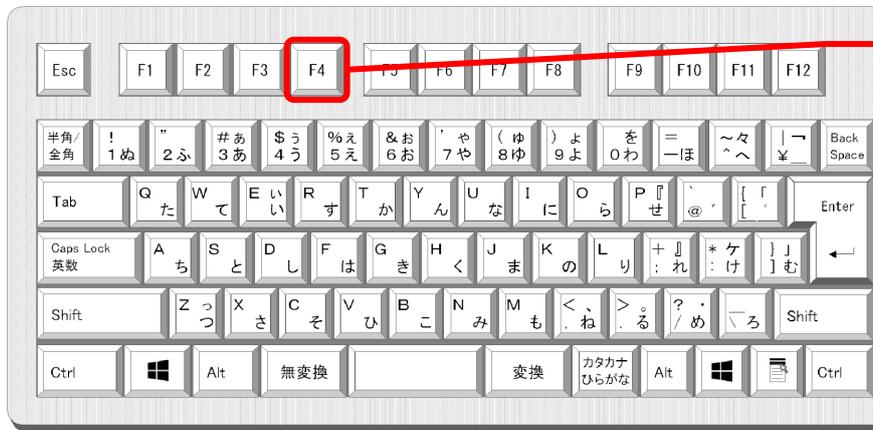
⑦ さらにスクロールして、目的の関数を探します。



⑭ 範囲をドラッグします。
例：セル A3~C7

※ P.4 の 2 参照

※ [範囲] 欄に選択した範囲が挿入されます。



⑮ 絶対参照が必要な場合は、[F4] キーを押します。
例：押す

※ 必要ない場合は、押さずに手順⑰に進みます。

関数の引数

VLOOKUP

検索値	A3	↑	= 0
範囲	Sheet2!\$A\$3:\$C\$7	↑	= {101,"え
列番号		↑	= 数値
検索方法		↑	= 論理

=

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。必要があります。

⑩ セル範囲に「\$」がついたのを確認します。

関数の引数

VLOOKUP

検索値	A3	↑	= 0
範囲	Sheet2!\$A\$3:\$C\$7	↑	= {101,"え
列番号	2	↑	= 2
検索方法		↑	= 論理

=

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。必要があります。

⑪ [列番号] 欄に、表の左から何列目の値を表示するか入力します。
例：2（列目）

※ P.5 の 3 参照

関数の引数

VLOOKUP

検索値	A3	↑	= 0
範囲	Sheet2!\$A\$3:\$C\$7	↑	= {101,"え
列番号	2	↑	= 2
検索方法	0	↑	= FALSE

=

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。必要があります。

⑫ [検索方法] 欄に「0」か「1」を入力します。
例：0
（「完全一致」検索）

※ P.5 の 4 参照

1-4 VLOOKUP 関数の「近似値」検索

次に「**近似値**」検索の場合を見ていきます。

実際の使用例を見て、イメージをつかみましょう。

実際の操作は、P.19 以降で行っていきますので、ここでは軽く読み進めて、イメージをつかんでいただく程度で結構です。

例：下図の**セルB3**に [点数] (例：63) を入力したら、別シートに作成した表を検索して、[点数] に該当する [評価] (例：B) を元シートの**セルC3**に表示したい。

	A	B	C
1	成績表		
2	氏名	点数	評価
3	安藤	63	B
4			
5			
6			
7			
8			

	A	B
1	評価一覧	
2	点数(以上)	評価
3	0	E
4	20	D
5	40	C
6	60	B
7	80	A
8		

別シートに作成した表→

「**完全一致**」検索との違いは、「**近似値**」検索では、値を一定の範囲で検索する点です。

上の例では値が「63」点で、検索先の表を見ると「評価Bの60点以上、評価Aの80点未満」に含まれるので、評価「B」が元シートに返されています。

このように、入力した値を別表の一定の範囲から探して、データを取り出すのが「**近似値**」検索です。

この例では、セルC3に VLOOKUP 関数を挿入して次のように設定します。

関数の引数	
VLOOKUP	
検索値	B3 <input type="button" value="↑"/> = 0
範囲	Sheet2!\$A\$3:\$B\$7 <input type="button" value="↑"/> = {0,}
列番号	2 <input type="button" value="↑"/> = 2
検索方法	1 <input type="button" value="↑"/> = TRU
	=

「近似値」検索も「完全一致」検索と同じく、「**検索値**」、「**範囲**」、「**列番号**」、「**検索方法**」の4つの欄を設定します。

各欄に設定する内容は「完全一致」検索とほぼ同じですので、違う部分のみを詳しく説明していきます。

1-6 IF関数の概要

IF（イフ）関数は「作成した条件に当てはまるか、当てはまらないかで結果を分岐させる」関数です。

応用範囲がとても広く、最もよく使われる関数の1つです。

さらに、IF関数の特徴として「よく別の関数と組み合わせて使われる」ことがあります。

特に、先に学んだVLOOKUP関数は、IF関数と組み合わせて使う場合がほとんどです。



IF関数は
単独でも使われるけど、
他の関数との相性が良い！
特にVLOOKUP関数には
必須の関数なんだ。



1-7 / IF関数

まず、IF関数の実際の使用例を見て、イメージをつかみましょう。

例：下図でセルB1が60以上なら、セルB3に「合格」、
60未満なら、セルB3に「不合格」と表示したい。

	A	B	C
1	あなたは	65	点でした。
2			
3	よって	合格	です。
4			

この場合、セルB3にIF関数を挿入して、下図のように設定します。

関数の引数

IF

論理式	B1>=60	↑	= TRUE
値が真の場合	"合格"	↑	= "合格"
値が偽の場合	"不合格"	↑	= "不合格"
			= "合格"

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

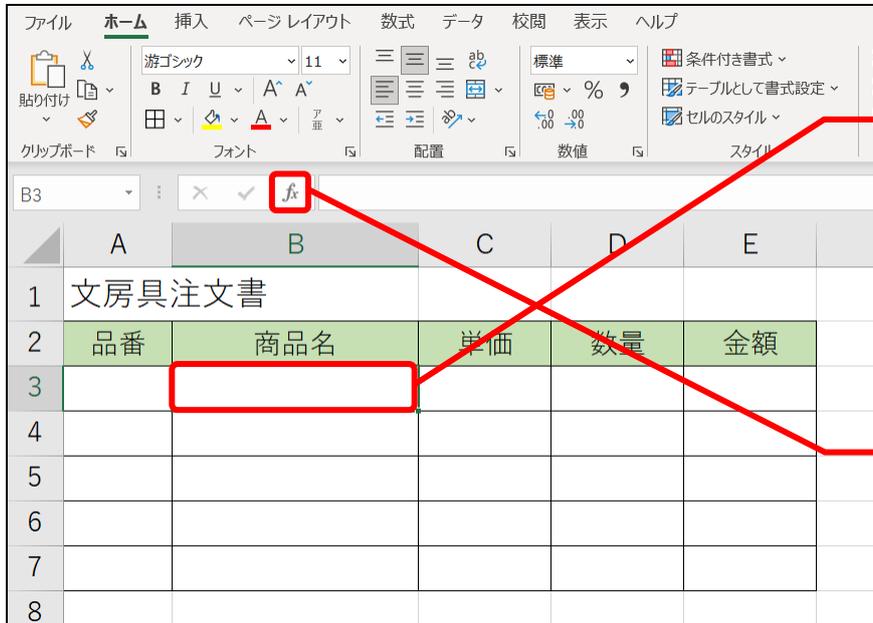
上記のように、IF関数では [論理式]、[真の場合]、[偽の場合] の3つの欄を設定します。

各欄をさらに詳しく見ていきましょう。

1-10 / IF関数を挿入する（空欄なら空欄を返す場合）

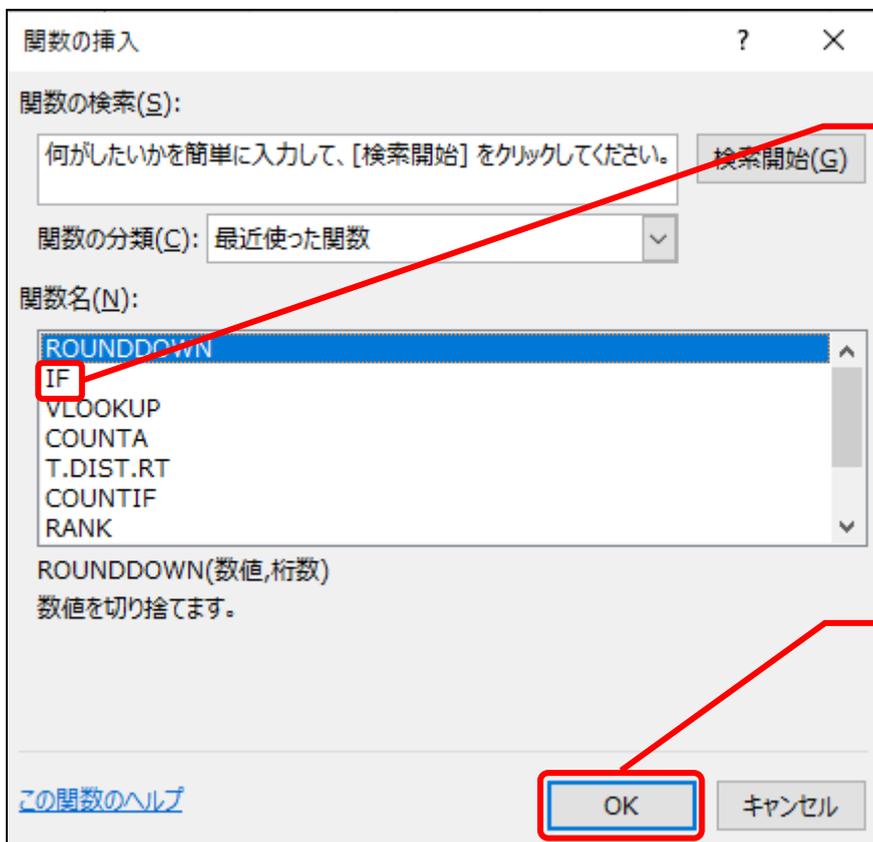
IF関数でよく使われる「空欄なら空欄を返す」場合の手順です。

前項で開いた表のVLOOKUP関数のエラー値を表示させないように、IF関数を組み合わせて式を作成してみましょう。



① 関数を挿入するセルを選択します。
例：セルB3

②  [関数の挿入] をクリックします。



③ [IF] をクリックします。

④ [OK] をクリックします。

関数の引数

IF

論理式

値が真の場合 = すべて

値が偽の場合 = すべて

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

⑤ 「論理式」欄にカーソルがあるのを確認します。

A3 X ✓ fx =IF(A3)

	A	B	C	D
1	文房具注文書			
2	品番	商品名	単価	数量
3	<input type="text"/>	=IF(A3)		

関数の引数

IF

論理式

値が真の場合 = すべて

値が偽の場合 = すべて

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

論理式には結果が真または偽になる値、もしくは

⑥ 条件となるセルをクリックします。
例：セル A3

※ 選択したセルが入力されます。

関数の引数

IF

論理式

値が真の場合 = すべて

値が偽の場合 = すべて

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

⑦ 続いて、「=""」と入力します。

※ 「=""」は「空欄」という意味です。
(P.26 参照)